

第4学年1組 音楽科指導と評価の案

日時 : 平成17年6月15日(水) 第5校時  
 場所 : 音楽室  
 授業者 : 押井 香織

- 1.題材名 いろいろな音のちがいを感じ取ろう 教材名 『音のカーニバル』  
 2.本時の目標 仲間の動きをよく見て、4分休符をきちんと休んで、自分が入る出だしのリズムを合わせて、遅れず入り、リレー奏をすることができる。  
 3.本時の評価規準 歌の拍の流れにぴったり合わせて、リレー奏をするために、仲間の動きをよく見て、出だしのタイミングを合わせて遅れず入り、4分休符をきちんと休んで、リズムを打つことができる。(表現の技能)

- 4.子どもづかみの具体  
 (学ぶ意欲) 曲を楽しんで歌ったり、「こんな風に表現してみたい」という願いを持ったりして、進んで活動することが少しずつできるようになってきた。グループ活動を通して、仲間とともに活動する意欲を高めたい。  
 (学ぶ力) 中間研究会を毎時取り入れることで、課題を達成するための手がかりを仲間から学ぶことが少しずつできるようになってきたが、自分の後半練習に生かせるようにしたい。  
 (学び得た力) 導入で今まで学習してきたことを毎時繰り返し、歌ったり、演奏したりすることで、基礎基本の力を定着できるようにしたい。

5本時の展開 (5/8)

過程	学 習 活 動	研究テーマ具現のための手立て
導 入	1はじめしよう 2遊ぼう ○まねっこごっこでリズム遊びをする。 3合わせよう ○「笛星人」をお互いの音を聴きながら、リコーダーで演奏する。 4歌いよう ○「音のカーニバル」をリズムにのって歌う。 5本時のめあてを持つ。 ○(？ボックスから、前時の演奏を振り返り、本時のめあてを持つ)	(意欲づけを図る教師の指導・援助) 楽しんでリズム遊びをしたり、リズムに乗って伸びやかに歌ったりしている子を認め、意欲につなげるようにする。(研究内容4)  (切実感ある課題づくり) 子どもにとって切実感ある課題づくりをするために、前時の様子をビデオに撮り、そこから課題を見つけるようにする。(研究内容3)
	課題 リズムをぴったり合わせて、リレー奏をしよう。	(課題把握の様子をつかむ教師の指導・援助) 正しく4拍子のリズムが打っているか机間巡視をし、子どもづかみをする。(研究内容4)  子どものつまずきにに応じて、多くの手だてを持って支援する。(研究内容4)
つ か む	6練習しよう(前半練習) ○歌に合わせて手拍子をしなが、出だしをそろえ、正しくリズムが打てるか練習する。 ①音のカーニバルの歌に合わせて出だしをそろえ、始めから終わりまで、正しく4拍子のリズムが打てるようにする。(自分の席で) ②グループのみんなと、手拍子でリズムをぴったり合わせて、リレー奏をすることができるようにする。(ステージコーナー1で) ③グループのみんなと、楽器でリズムをぴったり合わせて、リレー奏をすることができるようにする。(ステージコーナー2で)	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 150px;">入るタイミングが判らない。</div> <div style="font-size: 2em;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 150px;">友だちに手拍子で、拍子をとってもらおう。</div> </div>
	7中間研究会 ○リズムをぴったり合わせて演奏している仲間の演奏を聴く。 ○仲間の演奏を聴いて、よかったところや、練習方法の工夫点を見つけ、後半の練習に生かせるようにする。 ・♪4分休符のところで膝を曲げて、きちんと休みをとっていたよ。 ・♪出だしがそろうように、合図をしていたよ。 ・♪リズムがぴったりそろうように、丸くなってみんなの動きを見ながら出しのタイミングを合わせていたよ。	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 150px;">リズムを合わせて演奏することができない。</div> <div style="font-size: 2em;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 150px;">友だちに歌を一緒に歌ってもらいながら、リズムを打つ。</div> </div>
	8練習しよう(後半練習)	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 150px;">仲間の練習方法の工夫点を見つけることができない。</div> <div style="font-size: 2em;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 150px;">なぜリズムをぴったり合わせて演奏できるようになったのか演奏した仲間に聞く</div> </div>
ふ か め る	④グループのみんなと、楽器でリズムをぴったり合わせて、リレー奏ができるようになったら、仲間のグループに聴いてもらう。(ステージコーナー2で) ⑤グループの仲間とリズムをぴったり合わせて、リレー奏ができるようになったら、ミニミニ発表会に向けて、音楽に合わせて、何度も練習するようにする。(ミニミニ発表会控え室)	中間研究会で仲間の演奏を聞いて、練習方法の工夫点を見つけ後半練習に生かす。(研究内容3)
	9ミニミニ発表会 ○友だちの演奏を聴いてよかったところを見つける。	(よさや高まりを認める教師の指導・援助) 1時間の中で、その子なりのがんばりを認め、価値づける。また、次時の課題につなげるように配慮する。(研究内容4)
	10自己評価	(自己評価) 学び合い学習での仲間の評価や発表の場での高まりから自己評価(OKマグネットや授業の感想から)をする。(研究内容3)
た し か め る	11終わらしよう	

日時：平成17年6月15日（水）第5校時

場所：音楽室

授業者：押井 香織

1 題材名 「いろいろな音のちがいを感じ取ろう」

2 題材の目標 （4観点）

（関心・意欲・態度）

音の特徴や音色のちがいに興味をもって、進んで聞いたり、表現したりすることができる。

（表現の工夫）

音色や響きのちがいを感じ取って、音の出し方や組み合わせを工夫することができる。

（表現の技能）

音の特徴や音色のちがいを生かして、イメージにあった表現をすることができる。

（鑑賞の能力）

楽器の音色のちがいや美しさを感じ取りながら聴くことができる。

3 指導に関わって

（1）題材における教材観

身近な楽器や身の回りのものからでてくる音のちがいや素材との関連に気付いて表現を工夫する活動を進めてきた3年生までの学習経験を生かして、この題材では音楽を構成する様々な要素の中から、「音色」に焦点を当てて表現と鑑賞の活動をすることがねらいである。

そのためここでは、音を出す素材を発見したり、音の出し方を工夫したりする自由な音づくりから、イメージにあった音づくりや音の組み合わせを工夫していく活動へと展開していきたい。

教材の主な活動としては、「音集め」では、いろいろな打楽器や身の回りのものからでる音や体を使って出した音などを聴き比べて音を探したり、打ち方を工夫することによって音が変わることなどに気付いて音の出し方を工夫し、「音のカーニバル」では、集めた音をつかって、グループごとにおもしろい音の組み合わせを工夫し合ったり、歌に合わせて互いの音を聴き合い、リズムをぴったり合わせて演奏することを大切にしたい。

また、鑑賞教材の「木管楽器の音楽」では、木管楽器それぞれの音色のちがいを感じ取って聴き比べたり、その音色の美しさを味わって聴いたりすることができるようにしたい。

（2）題材における児童観

これまでに児童は、いろいろな打楽器の音色や特徴やちがいを感じ取るために「ブラックカーテン」の中から聞こえる音が何の音かを当て合ったり、同じ楽器でも奏法などによっても音色が違ったり、変化することを学んできた。

しかし、児童の中には、自分のイメージしたことをイメージに合わせて音選びができない子もいる。そこで、イメージしたことを具体的に述べさせ、いろんな楽器にたくさんふれることを通して、音選びをし、表現することができるようにしたい。

また、「音のカーニバル」では、自分たちが表現したいイメージに合わせて、○△◇□×音符を演奏することを通して、互いの音を聴き合うことが大切であることを押さえたい。

中には、なかなかテンポが合わず、拍に乗れない児童もいる。リズムをぴったり合わせて演奏するためには、呼吸を合わせること、お互いを見合うことも重要であると言うことに気付かせていきたい。

（3）題材における指導観

私たちの身の回りには、様々な音があふれている。しかし、日常的にきこえるこうした音に私たちの意識や子ども達の意識は向いておらず、あまりにもたくさんの音の洪水の中で、聞き流したり、気にもとめないでいることが多くあるように思われる。

この単元では、声も含む楽器の音や、身近な音に関心をもって注意深く耳を傾けながら表現をする工夫などの活動を展開し、音や音楽に対する感性を育てたいと思う。

また、音には固有の音色があり、「あの音はリコーダーだ」とわかるのも、この音色が、ほかの楽器にはない固有の音色を持っているからであり、音を持つ様々な特徴の1つに、こうした「音色」があげられる。

この音色を巡って3年生では、いろいろな打楽器などの音色のちがいを確かめながら、「魔法をかける音」というイメージを課題にして、これを音で表現する活動をしてきている。

こうした学習経験を基に、4年生では奏法を工夫することによって、音色が変化することも気づき、音色そのものを味わう活動を進めていきたい。そして、打楽器や身の回りのものをつかっていろいろな音を作って、発表しあったり、見つけた音を集めて、おもしろい音の対比を課題にしながら、グループごとに組み合わせを工夫させ、組み合わせが決まったら、「音のカーニバル」の歌といっしょに演奏し楽しませたい。

鑑賞教材「木管楽器の音楽（とんび）」では、音色のちがいを聴き比べたり、それぞれの楽器が持つ固有の音色の美しさを味わわせていきたい。